

平成 24 年度
視察研修報告書

視察研修日 自 平成 25 年 1 月 31 日 (木)
至 平成 25 年 2 月 1 日 (金)

視察研修先 熊本県御船町議会
熊本日日新聞社

基山町議会
広報編集委員会

目 次

視察概要	2
大山 勝代	3
木村 照夫	4
河野 保久	7
牧菌 綾子	10
久保山義明	12
神前 輔行	15

視 察 概 要

日 時：2013年1月31日（木）、2月1日（金）

視察地：熊本県御船町、熊本日日新聞社

対応者：1 御船町議会 広報編集常任委員会 編集委員長 田上 忍氏他
2 熊本日日新聞社 NIE専門委員 越地真一郎氏

議員名：大山勝代、木村照夫、河野保久、牧園綾子、久保山義明、神前輔行

内 容：広報編集特別委員会視察研修

研修1

御船町：人口 17,894人（平成22年国調） 世帯数 約6,900戸 面積 約99km²

議 会：議員定数 16人（次期から14人）

平成22年3月 議会基本条例制定 通年議会開始 1週 全員協議会 2週

「あおぞら会議」「議会報告会」開催 平成24年町議会フェイスブックの開始

議会だより「あおぞら21」発行の概要

通年議会に伴って「議会だより」も毎月発行

・最新の議会の活動状況を町民に説明するとともに、行政とは異なる視点も交えた政策課題等の提示

・発行 年12回 ・部数 6,400部 ・予算199万円（実績120万円）

・仕様 A4版 表紙及び裏表紙カラー刷り、本文2色刷り 横書き 左綴じ

・委員 6人 各常任委員会から2人ずつ

・平成24年 熊本県町村議会議長会広報コンクール「特選」

研修2

講話「新聞で議員力を磨こう」

講師紹介 NIE（教育に新聞を）専門委員

熊本大学客員教授 熊本学園大学招聘教授

平成24年11月 佐賀県町村議会主催広報研修会の講師

・上記のテーマで新聞の具体例を示しながらワークショップも含めての講話。いつ講師から課題を振られるか緊張しつつ、広報編集力を磨くための有意義な研修だった。

・ワークショップ例

穴あき記事に文字を入れる。 報道写真にコメントを入れる。

事実のみの記事に意見を入れる。 陥りやすい記事の作り方の例

見出しの付け方等

日 時：2013年1月31日（木）～2月1日（金）

内 容：広報編集委員会行政視察報告

議員名：大山 勝代

研修1 御船町 議会だより「あおぞら21」

頂いてきたNo.68（H24年9月号）から71（最新1月号）を見ての感想

【表紙】

- ・写真はすべて人物で、子どもたちの動きのあるアップが多い。
- ・各地域の小さな行事等も取材して表紙になっている。
- ・写真は行事等の説明と話し言葉が書かれていて親しみがわく。（「私、負けないわよ！！」）また、その人の名前も出ているのに驚く。
- ・円の囲みに、その月の中心の記事が書かれている。（例 議会報告会特集）

【特集】

- ・議会報告会特集（全14ページ）では全体の概要と、10地区全部参加者から出た質問と議会側の回答が11ページにわたり書かれている。写真も多く挿入されている。

【定例会】

- ・予算、決算、補正、議案審議、一般質問、委員会審議等が横書きで書かれているのが新鮮。

【裏表紙】

- ・「人シリーズ」は、それぞれの地区で活動している方に焦点を当て、その活動と思いが記事になって、町民が興味をもって読めるよう工夫してある。
- ・「編集後記」を読むと、季節の事、地域の行事の事、各地で話題になっていること、議会内の課題の事等議会と町民をつなぐ広報編集委員としての目配り気配りがなされていることがよく分かる。

研修2 熊日新聞 越地真一郎氏の講話

- ・まず初めに本社5階の新聞博物館を見学した。新聞博物館として全国で最初にできたということで、古くからの資料が多く集められて展示してあった。

- ・講話は、レジメの見出しに沿って、レクチャーとワークショップがあり、気の抜けない2時間で充実していた。

（見出し ・ウォーミングアップ ・議員と新聞の接点 ・“素っぴん”で勝負 ・気分はコメンテーター ・新聞表現のワザを盗め ・要点をつかむ ・大事な事を先に ・具体性が相手に届く ・余話 ・新聞と投票率 情報とは何か）

- ・この方は九州各地での各種研修に呼ばれている講師（特に熊本・佐賀・沖縄）で、講義を受ける側としては緊張し、また充実した研修であった。

- ・夜の夕食会にも気軽に同席して頂き、多様な話題で盛りあがって、楽しい一時だった。

日 時：2013年1月31日（木）～2月1日（金）

内 容：広報編集委員会行政視察報告

議員名：木村 照夫

1. 熊本県御船町の議会だより編集の視察

御船町は人口 17,894 人と世帯数は 6,900 戸である。山間地に囲まれた静かな町であり、基山町と類似している。議会は全国的に少ない通年議会を実施している町でもある。議会だより「あおぞら 21」を毎月発行している。その議会だより月刊発行誌の取り組みについて研修視察を行った。

（1） 御船町の議会だより内容

① 平成 22 年 3 月議会において通年議会を盛り込んだ議会基本条例を制定した

② 毎月発行の仕組み

議会基本条例を制定後、最新の議会活動状況を住民に説明するため、議会だより「あおぞら 21」を平成 22 年 4 月より毎月発行している。

③ 「議会の情報をいち早く町民へ」をテーマにしている。

議会が政策づくりと監視機能を十分に発揮するためには、まず町民と情報を共有し町民と共に歩むことが前提である

④ 発行回数時期等について

発行部数年 12 回。印刷部数 6,400 部で A4 版表紙、裏表紙カラー刷り本文 2 色刷り横書き、左綴じの 3 段 16 文字×48 行である。年間予算は 1,991,000 円である。

⑤ 委員の選出基準

位置づけは広報編集常任委員会で、人数は 6 人で 3 常任委員会から 2 人選出している。任期は議員任期中としている。

（2） 研修成果及び改善策

① 毎月発行のため月間スケジュールを細部にわたり決めている。議会開催前より役割分担表をつくり写真、一般質問、審議内容、委員会報告、祭事、編集後記を作成している。基山町でも議会前に役割分担表を作成し進めて行きたい。

② 裏表紙に議会への意見要望を寄せていただく「人」のコーナーを設けている。議会だよりづくりに参考にしたい。

③ 一般質問のコーナーでは内容の写真が入っている。新鮮さがあり、質問者が必ず写真を撮り、編集するように取組んで行きたい。

④ 編集体制で気づいたこと

・御船町では議会広報編集常任委員会としている。基山町は広報編集特別委員会である。議会広報編集常任委員会として活動すべきである。

・構成は 6 人である。任期は御船町 4 年である。基山は 2 年と決めているが、議会だよりが精度を増し充実した紙面を造るためには 2 年では早すぎる。任期期間中の 4 年にすべきである。

・広報委員の研修費御船町は1人88,000円である。基山町は1人17,200円である。御船町は町村議会広報研修(東京都)研修に参加している。基山町も有意義な研修であれば、数名でも参加したら如何なものか。

(3) その他

御船町の庁舎内1階ロビーに入ると、総合案内所のコーナーがあり、職員が来訪者を案内していた。全職員が交代で案内しているとのこと。基山町でも地域住民サービスの一環として活用出来ないのかと思う。

2. 熊本日日新聞社の研修

(1) 「新聞で議員力を磨こう」テーマでの研修内容

① 議員と新聞の接点は深い。

イ 議員の活動の2大要素である。ビジョンや志をもって地方議員を目指したのか。それを住民に伝える表現力は何なのか。

新聞で社会を見つめる力を養う。世の中や地域で何がおきているか、それに対して、自分はどう考えるか。相手にどう伝えるか表現力を磨く。

② 新聞表現のワザを盗め

イ 見出しの重要性についての研修。要点をつかむことが重要である。見出しはコンパクトであり、インパクトがあること。

ロ 見出しは一番伝えたいことを簡潔に表し、全体像がわかるようすること。

ハ 文中の言葉を生かし、中身を具体的に伝える。

③ 大事なことは先に書くことについて学ぶ。

先決後各で先に結論で後に各論で表現することが大事である。

手紙文の反対で、結論を先に書く。各論は具体性、説得力を書くこと。

留守電のメッセージのごとく要件を先に述べる。後は相手聞かない。

④ 具体性が相手に届く

メッセージは何なのか?数値を入れた具体的な表現力の文章づくりを学ぶ。

⑤ 新聞と投票率について

新聞購買者の9割が投票に行っている。前回の衆院選で8紙が調査結果で、新聞を読む人は社会が分かる人であり、投票率がアップしている。

⑥ 情報とは何か

「情け」+「報」である。情報爆発時代ゆえに求められる・分析力と表現力が新聞紙上にある。新聞より議会だよりづくりに参考資料にすること。

(2) 研修成果として議会だよりに今後活かしたいこと

① 議会だよりづくりでは、写真の重要性を再認識した。写真で何を読者に表現しているのか、及び写真のコメントを必ず入れる。

② 新聞の見出し及び記事に何を表現し読者に鋭く紙面で表現しているのかを、研修した。議会だよりに活かしたい。

③ 紙面づくりのポイントとして

- ・要点をつかむ。・大事なことを先に。・正確に分かりやすく・具体的に
- ・事実と意見の区別をする。

④ 情報とはなにかを考えさせられた。「情けのあるお知らせ」であることが最重要と学ばせてもらった。

⑤ 分章のコメント・見出しの入れ方で、新聞による見出しのつけ方等を勉強した。

文章を書く前にコメントを重視して書くのか。又は文章を書いた後でコメントを入れたが良いのかを質問したが、両方とも吟味しながら書いたがベターであるとの答であった。

研修の成果を議会だより作成に、今後活かしていきたい。

日 時：2013年1月31日（木）～2月1日（金）

内 容：広報編集委員会行政視察報告

議員名：河野 保久

I はじめに

早いもので昨年、広報編集委員として、霧島市・始良市を訪問してから1年が経過した。その後、視察経験を活かして「愛される、分かり易い広報」づくりが出来ているかを検証する事が今回の御船町・熊本日日新聞への視察研修の大きな目的である。

御船町は一昨年6月に、東部地区の監査委員研修視察で訪れており、今回2回目の訪問はなつかしさを感じた。また熊本日日新聞で講師を依頼した越地氏は、昨年11月の県町村議会の広報研修会の講師として面識があり、再会出来る事を楽しみにしての視察となった。以下視察の概要については委員長の報告に委ねることとし、所感を述べて研修報告書といたしたい。



(御船町役場庁舎)



(熊本日日新聞玄関ホール)

II 所感

1 御船町視察研修での所感

(1) 議会だより「あおぞら21」について

- ① 平成22年4月からの通年議会の開始に伴い、議会だよりを毎月発行していることに、まず驚いた。毎月の全員協議会・議会・各委員会と併行し編集スケジュールが組まれている。当事者の編集委員の方々は、それが当然の事と受け止め活動しているので、苦にならないとのこと。脱帽です。



(会議風景)

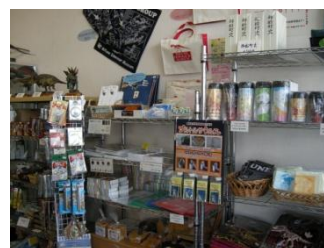
- ② 町民に分かり易く読み易い広報にする為の各々の工夫は参考になった。
- 目次の工夫……中心テーマのフォントを大きく太字で強調。
 - 横書き紙面での統一……数字が読みやすい、日常の書類も横書きが主流で目が慣れている等の理由から。
 - 分かり易さを追求した紙面の作成……文体の統一よりも、まず分かり易さを言った委員の方の発言からも、その姿勢が垣間見られた。
- ③ 一般質問、議案審議での問と答の箇所が発言者の実名で記されていることは、注目に値する。
- ④ 各号とも、各月の定例会の特色、議会としての主張が見出し等ではっきりと打ち出されている点は、おおいに見習っていきたい。

(2) 議会運営

- ① 通年であるが故か断言できないが、一般質問者数が年間延べ 28 名（1 人平均、1.75 回/年）と基山と比較すると極端に少ない。通年議会の為、全員協議会・各委員会での審議が充実しているのであればその場を一度傍聴したいと感じた。
- ② 先決処分が年間 16 件と多い。
「強い町長」との風評を耳にするが、そのためなのか。議員の中から何とかせねばというニュアンスの発言があったのが興味深い。
- ③ 各種団体、グループと議員との間で双方の呼びかけのもと、あおぞら会議が活発に行われている様子。羨ましいと感じたし、基山でも検討すべきと感じた。

(3) その他

- ① 恐竜博物館を見学した。年間入場者約 3 万人、記念品売り場の品数も豊富であった。次年度には施設をリニューアルし、更に町の顔としてアピールを図っていこうとしている。それに比べて、基山の「歴史民俗資料館」はどうだろう。もっと町の顔として活用していくよう努めていかねばと思った。



(恐竜博物館記念品売り場)

2 熊本日日新聞視察研修での所感

(1) 講話「新聞で議員力を磨こう」

- ① 何を言っているのか分かり易い議員の一般質問の見出しは、記者からみてつけ易いし、同じものになると言うご意見をうかがった。常々その方向で、一般質問を考え、行っている私にとって、方向性に間違いが無かったことを実感でき嬉しかった。
- ② ワークショップの中では、「事実のみの記事にコメントーターとして意見を入れる」という課題。難しいと思ったが楽しかった。新聞を読みながら機会を見て試してみようと思う。



(受講の様子)

- ③ 工夫次第では日常のあらゆる場面で編集力を磨くことが出来ると分かった。
 - 大事なことを先に（書く）……留守番電話にコメントを入れるつもりで練習する。
 - 要点をつかむ文書の作成……メールの見出しを書く時をイメージする。
- ④ 原稿をチェックをする時に、自分の主観で行っていたことが多く、反省させられた。「自分には分かる→他人にも分かるか」を意識していきたい。
- ⑤ 「新聞読者の 9 割が投票」と言う 12 月衆議院選挙アンケート結果（日経等新聞 8 誌の読者アンケートによる）には驚いた。9 割（＝多く）の方々に議会だよりを読んで頂ける議会だよりをつくることは、議会の活性化、元気な町づくりに繋がることと思った。

(2) その他

- ① 新聞社の敷地内にある「新聞博物館」を見学。「昭和天皇崩御」を報じる新聞が展示されていた。年月の経過を感じた一瞬であった。



Ⅲ 結びに

今回の視察研修で、広報編集委員会のメンバーで話し合っていた方向性は正しかったと感じたが、まだまだ実現出来てないのが現状である、その反省を今後の広報編集活動に活かしていきたい。

日 時：2013年1月31日（木）～2月1日（金）

内 容：広報編集委員会行政視察報告

議員名：牧 蘭 綾子

「1」研修内容（御船町）・・・議会だよりの毎月発行への取組

- ①議会だよりを発行していくうえでの問題点をどのようにクリアしているのか。
- ②通年議会による議会だよりの毎月発行をどういう編集スケジュールで行っているのか。
- ③議会モニター制度とは、どういうシステムで導入されたものなのか。
- ④一般質問の内容をどう掲載しているのか。
- ⑤あおぞら会議（平成22年より開催）の内容を詳しく聞きたい。

以上の内容を中心に各議員が質問をした。御船町は年 12 回発行で、発行部数は 6400 部。毎月発行なのでその月の最初の月曜日に、各役割の分担をする。翌週に前月号の編集作業と、曜日を変え、その月の号の原稿を入稿する。そして、また翌週に校正作業をし、翌週に校出・校了を行い4週間で最後の金曜日に納品という手順で行われている。

校出はメールやFAXで随時確認作業を行っている。基山町も2月1日発行の議会だよりは、このやり方でチェックを行っている。議事録は待てないので、役割の担当者が本会議での内容を聞きながら文字を起こしているとのことである。時間的な意味合いも含め、編集会議の場には、印刷所の人も入る形をとっており、このことは入札条件に明記されている。

本会議での一般質問は、議会運営委員会に2日前までに提出した人のみで、質問時間は60分となっている。一般質問者は、毎回同じではなく、平成23年4月から平成24年3月は、トータル28人であった。それにより、各号の発行ページ数が違っている。議会招集が間に合わないという理由の専決処分について、どう対処しているのかの質問に対しては、第2木曜日を本会議としており、議案にしてほしい旨を議長を通じて言っているが、効果はないようである。これは、平成23年4月から、平成24年3月に16件あったという資料についての質問である。

議会モニターの方も研修の場に同席されており、どう感じているのかも聞くことができた。この制度は、平成23年より公募（10名募集で、実数6名）で、全員協議会も含めて参加を呼びかけ議長あてに報告をしてもらうようにしている。対応は今後も検討していくとのことである。

あおぞら会議は、町民の方より申し入れがあったときに行っているとのこと、町民の方の意見を聞く場となっており、開催の決定については議会運営委員会がしている。

「2」研修内容（熊本日新聞）・・・新聞で議員力を磨こう

”議員と新聞の接点”、”新聞表現のわざを盗め”、”要点をつかむ”、”大事なことを先に”、”具体性が相手に届く”、”余話”、などの大きなテーマに沿って、2時間半の講義であった。その講義では、写真を見ながら何を読み取れるか、また、何を短くきちんと伝えるのかを体験するコメンテーターの時間もあり、応用がきく地力をつけることの必要性を強く感じ

た。このことは議員、あるいは広報委員として共通課題であり、自分にしか言えないことを言うことのむずかしさを改めて知った。新聞社からも、記者の方のインタビューを受け、翌日の熊日新聞に掲載された。これは、議員が新聞社に出かけて研修をすることが珍しいことが理由のようである。

日 時：2013年1月31日（木）～2月1日（金）

内 容：広報編集委員会行政視察報告

議員名：久保山 義明

○ 視察内容と所感

熊本県上益城郡御船町 町議会

議会だより「あおぞら21」 毎月発行の取り組み

今回、視察先の御船町議会は全国的にも珍しい「通年議会」を取り入れた議会である。視察目的は、毎月発行される議会広報についてであるが、そこには議会基本条例制定時に盛り込まれた毎月本会議を開催する「通年議会」とリンクする部分が大きな重点であることを踏まえ、議会広報のみならず議会改革についての観点も視察の目的とせざるを得ない状況での訪問となった。

まず感じたのは、「議会改革」は「広報改革」と一体であるという点。毎月、本会議・委員会・一般質問を行っている議会にとっていち早く住民に議会の情報を伝えるという点で、毎月発行の議会広報は、ある意味必然に近いという印象を受けた。

また、注目すべきは表紙題。通常の「議会だより」ではなく「あおぞら21」とより親しみやすいネーミングは当町議会も改めて考える要素がある。また、サブタイトルとして「あなたと議会の情報ネットワーク」という表現は、より身近に議会報告を感じて頂くような工夫がされていると感じた。

次に、議会広報の仕様は右開き・横書きという今までの概念を打ち破っている。これは新たなチャレンジとして好意的に受け止められるが、町民の方にも違和感なく受け入れられているということであった。また、議案審議についてはほぼ議事録に近い形での表現方法であり、より臨場感を持たせる。さらに、それぞれの発言には個人名が記されている。これもより具体的な取り組みと言える。

最終ページには、「かがやく人」と題し住民の方の笑顔の写真を取り入れ、また各種団体の紹介などが記載されている。これもまた、住民との距離感を大事にした企画であると思われるが、あえて議会広報で取り上げる視点かどうかは、賛否は分かれるだろう。

最後に、各自治体からの視察も数多く受け入れられている御船町議会。それはおそらく、様々なチャレンジが御船町議会に含まれているからだと思われる。ここだから出来た。ではなく基山町議会としてこのチャレンジ精神をどう活かしていくかが今後問われる。

● 質 疑

Q: 常任委員会制を取られているが、本会議での委員長報告はされていますか？

A: 現在のところ、していない。

Q: 事務局（3人体制）の関わりは？

A: もちろん、印刷業者とのやりとりを中心にある程度関わって頂いている。

Q: 毎月発行となると入札時期の業者選定など支障はありませんか？

A: 確かに問題はある。特に業者が変わったときに今までのやり方との違いに戸惑う場面も出てくるが我慢してやるしかない。

Q: 入札業者は、町広報と同じ会社を選定されますか？

A: いいえ。議会は議会で選定する。

Q: 業者が議会へ来られ、打ち合わせを行うということでしたが仕様書に明記されていますか？

A: はい。条件として明記している。

Q: 毎月発行ということで予算増になると思われるが、町民理解は？

A: 実は、年4回の場合と予算自体はあまり変わらない。

Q: 議案審議がかなり議事録に近い形で記載されているが議事録との整合性は？

A: テープを起こし反訳している。原稿内容は質問者、答弁者に確認をする。

Q: 発言者の氏名も記載されているが、抵抗はありませんか？

A: 発言者の責任として個人名も明記している。

Q: 広報編集時のパソコンは私物を使用されますか？

A: 事務局に議員専用が1台しかないためほぼ私物です。

Q: 毎月発行されることに関して最も大変だと感じられることは？

A: とにかく時間に追われる。常に2ヶ月分の原稿が頭に入っている。

議会運営について

Q: 通年議会でありながら専決処分16件についてどう思われますか？

A: 大変多いと認識している。今後も指摘はしていく。

Q: 今日議会モニターの方がお見えですが、その内容は？

A: 議会モニター制度をとっている。現在、7人の方にお願ひし、全員協議会や議会傍聴をして頂き、議長あてに文書で報告して頂いている。



(御船町議会での視察研修)

○ 視察内容と所感

熊本県熊本市 熊本日日新聞社 NIE 専門委員 越地真一郎氏
「新聞で議員力を磨こう」

今視察では、今までの行政視察とは異なり企業研修が取り入れられた。講師とのご縁は、昨年議会広報クリニックであるが幅広い知識と民間視点は新たな刺激を頂いた。

NIE とは、Newspaper in Education の略で、新聞を教材として取り入れることである。議員と新聞には接点があり「熱い思い、それを伝える表現力」が必要である。そのために社会を見つめる力、考える力、表現する力をどちらも共通の要素として活用しなければならないとの講話からはじまった。

また、議会での発言は「自分にしか言えないこと」が大切であり、そこにはアドリブかつまり応用が利く地力が必要であるとのこと。

実際に、120 文字程度の記事を速読し、「感想を 30 秒程度にまとめコメントしなさい」という題目は、全委員が戸惑いをみせた。

広報については、「新聞表現のワザを盗め」と題し、

- (1) 要点をつかむ (2) 大事なことを先に (3) 正確に分かりやすく
- (4) 具体的に (5) 事実と意見の区別

これらをワークショップを通し学んでいった。

- (1) 要点をつかむ … 見出し＝インパクト＋コンパクト、同じ言葉を使うななど
- (2) 大事なことを先に … 先結後各（先に結論、後で各論）
- (4) 具体的に … ・いっぱいいた・10 匹ぐらいいた・2 畚の間に 10 匹いた

現在、情報が溢れている。情報化社会ではなく、情報爆発社会。この時代に求められるのは 血の通った、そしゃくした、経験でつかんだ、自分ならではの、人まねでない情報収集力・分析力・表現力であるという講師の話で締めくくった。

今回の研修では、新聞が政治や教育に与える力を改めて感じる事が出来た。それは、新聞読者の 9 割が投票に行くという記事からも確認できる。しかし、つい先日基山中学校の生徒 10 人に自宅に新聞があるか聞いてみたが、驚くことに 2 人の生徒しか手を挙げなかった。NIE の大切さを実感しながらも自宅に新聞がないとなるとまず間違いなく新聞を読んでいる生徒は皆無に近い。この現実戸惑いもあるが、今後 NIE を推進しなければならないと感じた研修でもあったため、まずはどこかのタイミングで基山中学校 3 年生の各教室に新聞を取り入れる提案をしていきたいと感じた。

* 余談であるが研修終了後、講師と男女参画の観点から女性議員のクォーター制(政治システムにおける割当制)について討論した。こういった賛否が分かれる議論を今後議会内で取り入れていくことも必要だと感じた。

日 時：2013年1月31日（木）～2月1日（金）

内 容：広報編集委員会行政視察報告

議員名：神前 輔行

御船町広報委員会は毎月広報誌を発行している。

主な理由として通年議会を開催するにあたって議会がいつ開催されているかわからない、何をしているかわからないとの町民の意見を聞き毎月議会だよりを発行している。

議会だよりを見せていただいたが翌月には町民に報告ができていた。

議会だよりを毎月発行にして町民の意見はどうかと言う質問に対しては、現在意見収集中であると回答を受けた。

現在御船町の予算は約190万円で年12回発行している。

年4回発行の時と予算はどのように変わったか尋ねると、予算は若干増えたが年4回発行時とあまり変わらないと回答を受けた。

御船町の議会だよりを拝見すると全体的に統一が取れていて見やすかった。特に全体を横書きで統一してあるところ、議案審議の内容が充実していた。

今後基山町の議会だよりも検討していかなければならない。特に町民に伝えたいことはもっと紙面を充実させる必要があると感じた。



熊日日新聞研修について

議員力UPをテーマに研修を行った。

実際に過去の新聞を見て30秒でコメントをして、アドリブ力など鍛えた。
他には写真を見て何の写真かを想像する、見出しをつける、優勝という言葉を使い換えるなどした。
いろんな場面で応用がきく力を鍛えてもらった。これが講師の先生が言う素っぴん力である。
議員として大事な表現力を改めて考えさせられた。
研修は約2時間だったが非常に勉強になり、今後の議員活動また広報にも活かしていきたい。

